

04・なる先輩とのえっちな夢を見て目覚めるけどそんなの誰にも言えない

〈シチュエーション〉

トラック02から数日後の放課後。

主人公、小枝、まゆかが、教室で話すシチュエーション。

場所移動はなし。ずっと教室で過ごす。

授業中、ずっと眠っていた主人公に対して、小枝とまゆかが、体調を心配したり『鳴瀬の夢は見られたか』と尋ねる。

本当は、主人公は鳴瀬との性的な夢を見ていたのだが、とても言えず、大慌てで隠す。二人はそれを不思議に思いつつも、夢を見ていた事には気づかない、という内容。

SE1 教室の環境音

【最初から最後まで流す】

【繰り返して流す】

【トラック終了まで流し続ける】

SE2 主人公が起き上がる音

【最初から最後まで流す】

SE3 小枝の足音

【最初から最後まで流す】

△ボイス加工あり▽

■ 右 50センチの位置から話しかける 以後次の指示があるまでこの位置で固定する
〈小枝〉

■ 机に突っ伏して眠っている主人公を、真横から覗き込んでいる。

『放課後だし、そろそろ起こそうかな』と思っていると、主人公が目覚めたので、声をかける

「【ちよっと呆れつつも優しく】

んあ、起きたわあ。

おうい、おはよう

〈主人公〉

「う、うん……。わたし、寝てた……？」

〈小枝〉

■主人公の『爆睡っぷり』について語る

「『さらっと肯定する』

うん。寝とった。

めっちゃ寝とったわ。もう放課後やで。

【ちよっと心配そうに、優しく】

大丈夫なん？

やっぱ最近頑張りすぎなんとちやう？

なあ、まゆか」

爆睡しとったもん。

〈主人公〉

「そんなに……？」

小枝、隣にいるまゆかに話しかける。

△ボイス加工あり▽

■右 50センチの位置から話しかける

以後次の指示があるまでこの位置で固定する

〈まゆか〉

■ 小枝の背後からひよっこり顔を出して話し始める。

それから、主人公の『爆睡っぷり』について語る

「【穏やかに、くすくすと楽しげに】

ええ、とても気持ちよさそうに、ぐっすりと♪

【穏やかに、でも少し心配そうに】

あまりに珍しいものですから、先生も驚かれておりましたわ。
多めに見てもらえてよかったですね」

〈主人公〉

「あはは……」

小枝、ぐるっと回り込んで正面に移動する。

△ボイス加工あり▽

■ 正面 50センチの位置から話しかける 以後次の指示があるまでこの位置で固定する

〈小枝〉

「『ハッ!』と気づいた感じで。
ワクワクとテンション高めに」

せや！

こんだけ寝とったんなら、ついに見れたんとちゃう！ なる先輩の夢！」

〈主人公〉

「！」

△ボイス加工あり▽

■ぐいっと一気に近づく

■正面 0センチの位置から話しかける 以後次の指示があるまでこの位置で固定する
〈小枝〉

「『ワクワクとテンション高めに』
どうやった！」

〈主人公〉

「み、見てない！ 見てない！ ぜんぜん見てないよお！」

△ボイス加工あり▽

■ぐいっと一気に引っ込む

■正面 50センチの位置から話しかける 以後次の指示があるまでこの位置で固定する
〈小枝〉

「きよとんとツツコミを入れる。

主人公がそうまでして慌てている理由を、知る由もないので」
そない必死に否定せんくてもええやん。

「ガツクリと残念そうにしつつも、コミカルな感じで。

小枝は主人公が鳴瀬の夢を見れるかどうかについて、とても関心があるので」
そかそかゝ……そろそろやと思っただけだなあ。

おまじないしてから、もう結構経つやん」

まゆか、小枝と同様、ぐるっと回り込んで正面に移動する。

△ボイス加工あり▽

■正面 50センチの位置から話しかける 以後次の指示があるまでこの位置で固定する
〈まゆか〉

「『少し残念そうに。』

『かけ方』おまじないの手順』『貴方』主人公』

ええ……。私（わたくし）の見立てでは、貴方はあの日から毎日、眠る度に萱島先輩の

夢を見るはずだったのですが。

何か、かけ方を間違えてしまったのでしょうか」

〈小枝〉

「自分でボケて、自分でツツコミを入れる」

気になりすぎて、逆にうちがなる先輩の夢見てもうたもんね。

『そないやない！』って思ったわ」

〈まゆか〉

「小枝の言葉を受けて、真剣にボケる。『貴方Ⅱ主人公』」

という事は、小枝さんがあのおまじないをすれば……。

それが巡り巡って、貴方の夢に、萱島先輩が登場される可能性が……？」

〈小枝〉

「まゆかに、ビシッとツツコミを入れる」

いやいや、それはないんとちやいます？

「主人公のスマホが光った事に気づいて。

『何かの通知が来ているようだ』と伝えたい」

……あつ、なんかスマホ光ったで」

〈主人公〉

「あつ、ありがとう……。なる先輩だ」

△ボイス加工あり▽

■少し近づく

■正面 15センチの位置から話しかける 以後次の指示があるまでこの位置で固定する

〈小枝〉

「きゃっきやと嬉しそうに。」

小枝は今日、主人公と鳴瀬がデートである事を知っているので、それ関連の連絡だろう
と思っっている」

おっ、噂をすれば！ あんたら今日、デートやもんな♪
で、何やって？」

〈主人公〉

「『保健室にいるから、来て欲しいな』って……」

〈小枝〉

「きよとんと驚いた後、心配そうに」
んん？ え、保健室……？」

〈まゆか〉

「穏やかでありつつも、心配そうに。

主人公に『それなら早く保健室に行った方がいい』と促す」

あら、どこか具合が悪いのでしょうか……。

然様（さよう）でしたら、早く向かわれた方がよさそうですわね」

〈主人公〉

「うん！ たいしたことないって言ってるけど……。
すぐ行ってくる！」

〈小枝〉

「『まゆかと主人公に同意して』
せやな。

うんうん、それがええよ。

ほんなら、気つけてな。また明日な！

【にやつと楽しげに】

夢見たら、いつでも教えてなあ♪」

〈まゆか〉

「【穏やかに、でも楽しげに】

その時はぜひ、私（わたくし）にも。

では、また明日。お氣をつけて下さいましね」

SE 4 主人公が立ち上がる音

【最初から最後まで流す】

SE 5 主人公が荷物を取る音

【最初から最後まで流す】

SE 6 主人公の足音

【最初から最後まで流す】

【だんだんフェードアウトする】

ここでフェードアウトして終了。